



図書館だより

しいむちゅみ

2024 年1月

鳩間小中学校図書館

1月の図書館の努力目標

こてんぶんがく むかしはなし した
古典文学や 昔話に親しもう！



令和6年（2024年）のスタートです！みなさん今年の目標は決まりましたか？
やってみたいことや、興味のあること、どんどんチャレンジしてみたいと思います。

今月はお正月に関係する昔話をふたつご紹介します。
興味がわいたらぜひ本でも読んでみてくださいね。



えとしょうがつ
干支とお正月

まだ人間も生まれていない大昔のお話です。その昔、神様はその年、一年間を『守護する神様』を動物の中から決めようと考えました。新年の元旦に神殿へ早く来たものから12匹目までを守護神とし、干支と呼ぶことにする。と動物たちにおふれをだしたのです。

うっかりものの猫は集まる日を忘れてしまったので、通りすがったねずみに「集まる日はいつだったか」と聞きました。するとねずみは「新年の2日だ」と答えました。猫はこの言葉を信じて、2日に神殿へ行きましたがすでに元旦は順番は決まっていたので、ネズミ・ウシ・トラ・ウサギ・タツ・ヘビ・ウマ・ヒツジ・サル・ニワトリ・イヌ・イノシシが初詣の順番です。子、丑、寅、卯、辰、巳、午、羊、申、酉、戌、亥と守護神の名前が与えられました。猫は鼠に騙された気がつき、この時から猫と鼠は大変、仲が悪くなってしまいました。それからは猫はねずみを見ると追い掛け回し、この時の恨みを晴らそうとするのだそうです。



としだま ゆらい
お年玉の由来

むかし、ある所に何でも縁起をかつぐ店の旦那さんがいました。ある年の大晦日。旦那さんは、店の者たちに言いました。「明日、お正月の神さまをお迎えして、初詣へ行くのだから、いつもより丁寧に掃除をしなさい」店には誰よりもよく働く女中さんがいましたが、そそっかしいところがありました。その日、女中さんがすみからすみまで、きれいにしようとぞうきがけを張り切っていた時に、おかみさんから買い物をお願いされました。そそっかしい女中さんは、ぞうきを床に置きわすれたまま、買い物に出かけてしまいました。そして、帰ってくるとぞうきがけの続きを忘れて別な仕事を始めてしまったのです…。

元旦の朝。旦那さんが床の間の掛け軸を七福神に替えようといくと、汚れたぞうきんがあるではありませんか。旦那さんは縁起が悪い！とカンカンになり女中を呼んで、怒鳴りつけました。謝っても謝っても旦那さんの怒りは納まりません。すると店の番頭さんやって来て言いました。「ぞうきんは縁起が悪いものではありません。ぞうきを当て字で書けば、蔵と金。蔵に金が貯まるという訳です」なるほど！確かに、縁起が良い！と旦那さんは大喜び。番頭さんと女中さんにお年玉をあげたのでした。

お年玉は、もともと年神さまの霊魂が本来の意味でした。来訪した年神さまを、まだ力の弱い者たちに分かちあたえて元気づけようという意図がありました。そのため子供達や目下の者にお年玉をあげるようになりました。